1. 文化財保護課　Tel:049-224-6097　E-mail:bunkazai@city.kawagoe.saitama.jp

（1）文化財の保護と活用

①　文化財補助事業

【平成30年度事業予定】

・川越市には、国・県・市指定文化財等が265件あり、これらの保存を目的に補助金を支出している。

【平成29年度事業実績】

・無形民俗文化財の後継者育成等　17件
・有形文化財・民俗文化財の保存修理　6件
・団体の育成　2件
・建造物等の防災設備保守等　10件
・史跡・天然記念物の保存等　10件

②　新指定文化財

【平成30年度事業予定】

・指定文化財の保存と活用に努める。また、各種文化財の調査を進める。

【平成29年度事業実績】

・新たに指定となった文化財はなかったが、新指定候補の文化財を中心に調査を実施した。

③　文化財防火訓練

【平成30年度事業予定】

・毎年1月26日は、「文化財防火デー」となっている。これは昭和24年の法隆寺金堂壁画の消失を機に定められた日で、文化財を火災や震災等の災害から守るとともに、文化財愛護に関する意識の高揚を図ることを目的としている。川越市でも、この日に合わせて文化財防火訓練を実施し、文化財保護の意識の高揚を図っており、喜多院・東照宮・日枝神社を会場として川越地区消防組合等と共催で、防火訓練を実施している。

【平成29年度事業実績】

・大雪の影響により中止となった。

④　埋蔵文化財

【平成30年度事業予定】

・川越市内では、現在345か所の埋蔵文化財包蔵地が確認されている。これらは、国・県の指導のもと、詳細な分布調査を行い設定されたものである。こうした埋蔵文化財包蔵地の範囲内で開発行為を行う場合は、工事に先立って埋蔵文化財の存否を確認する試掘調査が必要である。試掘調査により、埋蔵文化財の存在が確認された場合、開発者との間で遺構の保存について協議し、どうしても破壊を免れないものについては、遺跡の姿を記録保存し後世に伝えるため発掘調査を実施する。

【平成 29 年度事業実績】

80件の試掘調査及び５件の発掘調査を実施した。以下にその成果の一部を紹介する。

・豊後山遺跡（的場）第２次調査では、古代（奈良・平安時代）の竪穴住居跡16軒、中世（室町時代）の地下式坑17基が検出された。

・山王塚古墳（大塚一丁目ほか）第4次調査では、石室の一部を確認し、遠方の石材が用いられていることが明らかになった。また、石室内からガラス小玉や須恵器が出土した。

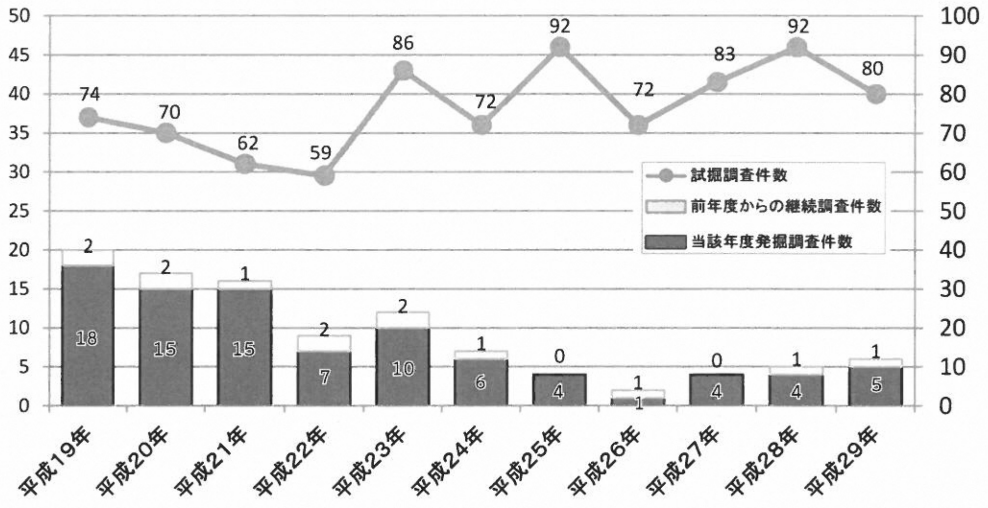
・霞ヶ関遺跡（霞ヶ関東４丁目）第24次調査では、古代（奈良）の竪穴住居跡１軒と時期不明の土坑４基が検出された。

・大塚遺跡（大字今福）第４次調査では、試掘調査で縄文時代中期後半の住居跡等が検出され、この内、道路部分の調査を実施した。該期の土器を含む遺物包含層が検出された。

・喜多院境内遺跡（小仙波町１丁目）第５次調査は、市指定史跡松平大和守家廟所保存整備に伴う調査であり、廟前に家臣が奉献した石燈籠（91基）の基礎構造や現位置を保っているか確認するために実施された。

以上のように、平成29年度の調査では地域の歴史を物語る多くの遺構・遺物が出土している。

試掘調査・発掘調査の状況



⑤　関係団体との連携

【平成 30 年度事業予定】

・文化財保護の意識の高揚、伝統芸能の保存育成を目的とし、埼玉県文化財保護協会、川越市文化財保護協会、川越氷川祭の山車行事保存会、各民俗芸能保存団体等と連携して、各事業の実施や援助を行っている。

【平成 29 年度実績】

・川越市文化財保護協会実施事業の文化財講座（２回）、文化財見学会（２回）、市内文化財巡り、会報の発行等の事務援助を行った。

・鯨井の万作保存会、上戸芸能保存会と連携し、河越流鏑馬（11 月 18 日実施　来場者 2,200 人）のなかで民俗芸能の披露を行った。

⑥　山王塚古墳整備

【平成30年度事業予定】

・山王塚古墳現地見学会を実施し、総括報告書を刊行する。

【平成29年度事業実績】

・周溝範囲補足確認及び埋葬施設遺存状態確認のための発掘調査を実施した。また、平成29年9月30日に現場説明会を実施し、698人の参加者があった。

管理施設

施設名	山車集中保管庫	時の鐘	永島家住宅（旧武家屋敷）	国指定史跡河越館跡史跡公園	川越城中ノ門堀跡
所在地	郭町2－25－12	幸町15－7	三久保町5－3	上戸195－1他	郭町1－8－6
敷地面積	1,071.80㎡	52.89㎡	1,184.62㎡	13,266㎡	1,078.59㎡
構　造	鉄筋コンクリート造	木造内部4層	木造平屋	—	—
延床面積	270.90㎡	20.66㎡	177.94㎡	—	—
建築年	昭和45年（1970）	明治27年（1894）	—	—	—
指定年月日	—	昭和33年3月6日	平成18年3月27日	—	—
整備年	—	—	—	平成21年（2009）	平成22年（2010）
備　考	—	—	—	—	—

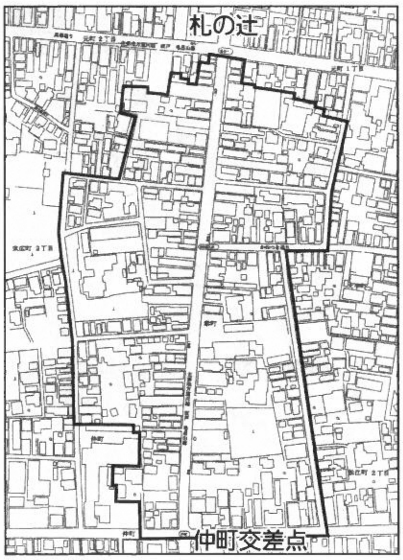
伝統的建造物群保存地区

川越市川越伝統的建造物群保存地区は、昭和50年の保存対策調査の後、長年にわたるまちづくりの取組みを経て、平成11年4月に都市計画決定を行い、同年12月に国から重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けた。地区の範囲は札の辻から仲町交差点までの南北約430m、東西約200m、面積約7.8haである。

地区内には、重要文化財大沢家住宅をはじめとする蔵造り商家や本市のシンボル的存在である「時の鐘」のほか、近代洋風建築や看板建築など、江戸時代以降の各時代の特徴を表す様々な建築様式が伝えられている。これらは、我が国の都市建築の発展をうかがわせる貴重な町並みを構成している。

なお、市民が主体的にまちづくりに取り組んでいることも高い評価を得ている。

平成29年度は、新たに2件の伝統的建造物を特定した。その結果、特定物件の合計は135件となった。また、保存事業として、伝統的建造物の修理5件、応急修理6件、景観事業1件、合計12件の補助事業を行った。



川越市川越伝統的建造物群保存地区の範囲

指定文化財一覧

国指定文化財			県指定文化財			市指定文化財		
種別		件	種別		件	種別		件
重要文化財	建造物	4	有形文化財	建造物	9	有形文化財	建造物	52
	絵画	2		絵画	2		絵画	1
	工芸品	3		彫刻	2		彫刻	12
	書籍・典籍・古文書	1		工芸品	5		工芸品	18
	無形民俗文化財	1		書籍・典籍・古文書	7		書籍・典籍・古文書	28
記念物	史跡	1		考古資料	1		考古資料	7
指定文化財計		12		歴史資料	1		歴史資料	6
			民俗文化財	有形民俗文化財	1	民俗文化財	有形民俗文化財	20
重要伝統的建造物群保存地区		1		無形民俗文化財	6		無形民俗文化財	11
重要美術品		2	記念物	史跡	3	記念物	史跡	32
登録有形文化財		12		天然記念物	1		天然記念物	8
登録記念物		1		旧跡	4			
計		28	計		42	計		195
総計 265件								

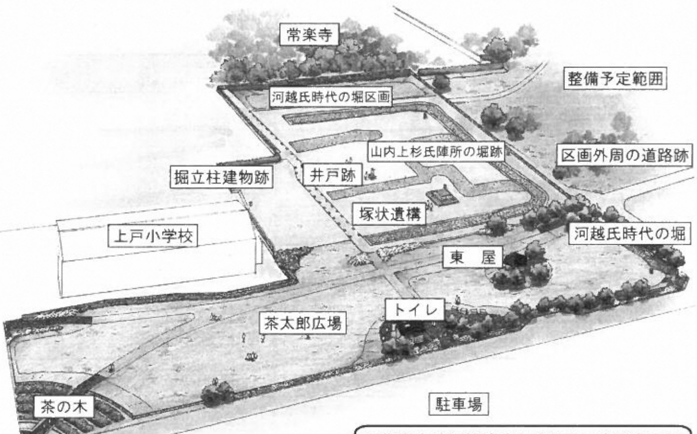
出版物

「川越建物細見」をはじめとしたパンフレット及び書籍・地図を発行し、市民の文化財保護に対する認識を高める手段として活用されている。なお書籍・地図については有償にて頒布しており、文化財保護課のほかに、市立博物館、川越まつり会館でも入手できる。

パンフレット	川越市の歴史年表
	川越建物細見
	国指定史跡河越館跡
	川越市指定文化財時の鐘
	川越の祭りと芸能
	国指定史跡河越館跡史跡公園
	川越城中ノ門堀跡
	市指定文化財旧山崎家別邸
	市指定史跡永島家住宅（旧武家屋敷）
	川越氷川祭の山車行事（日本語ほか9か国語）

書籍・地図	川越市の文化財
	ハンドブック　川越の歴史
	川越の伝説
	続川越の伝説
	川越の人物誌　第1集
	川越の人物誌　第2集
	川越の人物誌　第3集　女性編
	川越氷川祭りの山車行事調査報告書
	川越市文化財散策マップ
	川越の民俗調査報告書第1集　福原・南古谷地区の民俗
	川越の民俗調査報告書第2集　山田地区の民俗
	川越市指定文化財　旧山崎家別邸調査報告書
	元町二丁目井上家文書目録
	川越市山田地区民具調査報告書　鹿倉家の民具
	川越の神社建築
	川越の寺院建築
	時の鐘耐震化工事報告書

国指定史跡「河越館跡」



国指定史跡河越館跡史跡公園　施設案内図

市内上戸・鯨井地区にある河越館跡は、鎌倉～南北朝時代に活躍した武蔵武士河越氏の館跡であり、昭和 59 年 12 月 6 日に国の指定史跡となっている。指定面積は、48,509.18 ㎡である。

川越市はこの館跡の整備を進めるにあたり、昭和 61 年度に「史跡河越館跡保存管理基本計画」を策定。続いて、平成 12 年度には「河越館跡整備基本計画」を策定した。現在は、これらの計画に基づき整備事業を行っている。整備に当たっては国・県の補助を受けつつ土地を公有地化、遺構確認のための発掘調査を行い、その成果に基づき整備内容を検討、整備工事を実施している。土地は、現在、公有地化予定面積の約 93% を取得している。発掘調査は、歴史研究者による調査指導委員会の指導・助言を受けながら現在までに 16 回実施した。具体的な整備内容の検討は、歴史・建築・造園などの専門家から成る整備検討委員会によって進められ、平成 17 年度に「河越館跡史跡整備基本設計」を策定。続いて、平成 19 年度には「河越館跡（第 1 期）史跡整備実施設計」を策定した。この実施設計に基づき平成 19 年度から平成 21 年度まで河越館跡（第 1 期）史跡整備工事を実施した。

約２年半の整備工事後、平成21年11月15日に「国指定史跡河越館跡史跡公園」を開園した。この公園は、次世代に伝えるべき貴重な史跡である河越館跡の保存を図るとともに郷土学習の場、市民の憩いの場として有効な活用を目指すことを目的とする。全体が「史跡の広場」「茶太郎広場」の２つにゾーニングされ、「史跡の広場」では、河越氏時代の遺構を復元表示、「茶太郎広場」には、広々とした芝生の広場の一画に中世の銘茶「河越茶」に因んだお茶の木が植栽されている。

河越館跡の活用事業として平成29年度は公民館講座等での現地案内や小学校への出前授業を行うとともに、11月18日に河越流鏑馬実行委員会による「河越流鏑馬」を実施し、約2,200人の方に来場いただいた。

平成30年度は、活用事業を充実させるとともに、第２期整備へ向け、土地買上げ等、準備を進める予定である。

市指定史跡「永島家住宅（旧武家屋敷）」

永島家住宅は、川越城南大手門近くの侍町であった南久保町（現三久保町の一部）の一角に構えられた武家屋敷である。古文書や絵図資料から、その武家屋敷に住んでいた武士は、松平大和守家時代には250石から350石、最後の松平周防守家時代には110石の武士が住んでいたことがわかっている。また、特に御典医の居住が知られ、周防守家の石原昌廸は、30人ほどからなる藩医の筆頭の立場にあったことがわかっている。

平成18年3月に市指定文化財に指定され、平成24年3月より庭園の一般公開を行っている。

【平成29年度　見学者数】　毎週土曜日　9:00～16:00公開

公開月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
見学者数（人）	301	232	201	115	118	241	429	248	185	144	151	329	2,694

※10月15日（日）川越まつりに伴う特別公開、12月1日（金）市民の日に伴う特別公開を含む。